中央大学学長杯争奪スポーツ大会

中央大学は多摩キャンパスに1978年に約3万人の学生・教職員とともに移転して以来、「地域に開かれた大学」として、学術研究の公開や大学施設の開放などいろいろな取り組みを行ってきました。また、多摩の企業や市役所などと協力して専門的な研究を行う産官学連携や、「地域活性化への貢献」をテーマとした研究が高い評価を受けています。

また、地域の方の理解と協力により、学びながら社会で働くことを体験するインターンシップや学校教育現場として、多摩地区の小中学校でも中央大学の在学生がボランティア活動を行っています。

この中央大学学長杯争奪スポーツ大会も地域の方との交流を深め、スポーツを通じて地域の小・中学生の健全な育成に少しでも役立てるようにとの願いから、1991年にはじめた行事です。現在では八王子市、日野市、多摩市、町田市、稲城市、立川市、府中市、国立市の各教育委員会の後援のもと、応援者も含めて延べ4千人が参加する夏の恒例行事となっています。

「みんなといっしょの運動会」

日野市障害者福祉事業に協力

2009年10月に行われた日野市の障害者福祉事業「第14回みんなといっしょの運動会」は、会場を本学第1体育館として以来、9回目の開催となりました。以前の施設にはなかった身障者用トイレ、競技スペースや観覧席の広さなど、いずれも利用者から好評を得ています。

本学の学生はもちろんのこと、近隣の大学からも学生ボランティアが多数参加しており、日野市社会福祉協議会からは、「地域学生の連携にもつながっており、様々な機関・団体の協力の結晶」と評されています。

CHUO TOPICS

地域に開かれた大学として―― 中央大学の地域貢献

2010年度に第20回を迎える中央大学学長杯争奪スポーツ大会などのイベントをはじめ、災害が起こったときの必要物資の備蓄など、様々な領域で、地域貢献に取り組んでいます。

災害時用物資の備蓄について

近年は地震やゲリラ豪雨など、各地で様々な災害が頻発しております。本学では災害発生時にはまず学生・教職員を安全に避難誘導する体制を整え、安全に帰宅できるようになるまで学内に留まれるよう準備を行っています。この対応の一環としてこの度、災害時用物資の備蓄を行いました。

物資は多摩・後楽園・市ヶ谷キャンパスおよび駿河台記念館に納入しており、具体的には保存水・食料(かんぱん)・簡易トイレ・保温具を備蓄しました。また、多摩および後楽園キャンパスでは池の水などを飲料水用に浄化できる造水機(ロッキーデュー)も設置しています。この造水機は小型・軽量で移動可能な装置でありながら、一日あたり2,880リットルもの飲料水を造水できる装置です。

また、災害時用物資の備蓄については本学学生・教職員のみならず、地域貢献にもつながるものです。多摩・後楽園キャンパスはともに地域の広域避難場所として指定されており、多摩キャンパスではさらに八王子市と「災害時用備蓄等の物資の供給等に関する相互応援協定」を締結しています。さる6月22日には、八王子市長を招いて、市・大学間の協力関係を発展させています。

危機管理体制の強化は大学にとって重要な課題であり、今後とも推進して行く方針です。